

身近な樹木であるマツについてまとめてみました。

1. 寒くなっても青々とした葉をつけているマツは不老長寿の象徴とされ、同じく冬でも青い竹、冬に花を咲かせる梅と合わせて、日本では「松竹梅」と呼ばれておめでたい樹とされて珍重されます。(中国では「歳寒三友」というらしい。) マツ(松)という言葉の由来は、神を待つ、神を祀る、緑を保つから転じたものだそうです。
2. マツ科には11属250種ほどが、北半球の温帯地方を中心に生息しているといわれ、カラマツ属が落葉樹であるほかは、すべて常緑樹で、高木になります。  
マツ科の中のマツ属には、ゴヨウマツ、ハイマツ、リュウキュウマツ、アカマツ、クロマツ、ダイオウショウの6つが分類されます。
3. 和名でマツの名が充てられていても、マツ属でないものもあります。  
エゾマツ(トウヒ属)、カラマツ(カラマツ属)、トドマツ(モミ属)、ベイマツ(トガサワラ属)、ラクウショウ(落羽松)(別名ヌマスギ)(スギ科-ヒノキ科) などなど。  
(参考)メタセコイア(別名アケボノスギ)もスギ科-ヒノキ科です。  
(参考)最近の植物分類改訂で、スギ科がなくなり、ヒノキ科に統合されました。
4. マツは雌雄同株。雌花は枝の先端に、雄花は枝の根元にできます。(添付の写真参照)
5. 代表的な松であるアカマツは雌マツとも呼ばれ、山や内陸に多いのに対して、クロマツは雄マツと呼ばれ、海岸や砂丘に多いとされます。前者は葉が柔らかいのにに対して、後者は葉が固いところから来ているよび方かもしれません。
6. 数年前に奈良公園の巨木調査を行った際に、興福寺近くにはクロマツが多いことを知りました。昔の植栽でしょうか、理由はわかりません。
7. 松の内とは門松を飾ってから、取り外すまでの時期 12/13~1/7ということらしい。
8. 門松は、歳神(としかみ)という神道の神様が、健康や幸せ、実りをもたらすためにやってくる際の目標(依代-よりしろ)として、福の神を招待するというのが役割である。いろいろ多くのものを飾るけれど、永遠を象徴し、待つ、祀るという意味につながる松の木があくまでも中心的な意味を持つものだそうです。  
中国の唐代に始まり、日本では平安時代にこの風習が生まれ、室町時代に玄関に飾ることが確立されたものだそうです。  
12月29日は二重苦という語呂から、また31日には一夜飾り・一日飾りとなるので、飾るのは他の日に行うのが良いとされています。
9. 高松市の栗林公園の松の手入れ、美しさを堪能しました。(2016年 11月)

以上



マツの花



アカマツ(雌マツ)



クロマツ(雄マツ)



ダイオウショウ



マツの花と球果(マツボックリ)



雪吊りのマツ(兼六公園など)



門松 (マツが中心)



栗林公園の見事な松